

離散数学入門 b レポート課題 No. 1

解答例

1. (a) $B = \{3, 6, 9, 12, 15\}$.
 (b) $A \cup C = \{2, 4, 5, 6, 8, 10, 12, 14, 15\}$.
 (c) $\bar{A} = \{1, 3, 5, 7, 9, 11, 13, 15\}$.
 (d) $A \cup (\bar{B} \cap C) = \{2, 4, 5, 6, 8, 10, 12, 14\}$.
2. (a) $A = \{3 \times 1, 3 \times 2, \dots, 3 \times 100\}$ だから, $n(A) = 100$ である.
 (b) $A \cap B = \{n \mid n \in U, n = 21k, k \in \mathbf{N}\}$ である. よって, $A \cap B = \{21 \times 1, 21 \times 2, \dots, 21 \times 14\}$ だから, $n(A \cap B) = 14$ である.
 (c) $B = \{7 \times 1, 7 \times 2, \dots, 7 \times 42\}$ だから, $n(B) = 42$ である. よって, $n(A \cup B) = n(A) + n(B) - n(A \cap B) = 100 + 42 - 14 = 128$.
 (d) $n(\bar{B}) = n(U) - n(B) = 300 - 42 = 258$.
 (e) $n(\bar{A} \cap B) = n(B) - n(A \cap B) = 42 - 14 = 28$.
3. (a) 否定: $\exists x \in \mathbf{Z}, x \notin \mathbf{N}$.
 $x = -1$ とすると, $x \in \mathbf{Z}$ であるが, $x \notin \mathbf{N}$ であるから, この命題は 真 である.
 (b) 否定: $\forall x \in \mathbf{R}, x^2 + x \geq 0$.
 $x = -\frac{1}{2}$ とすると, $x^2 + x = -\frac{1}{4} < 0$ であるから, この命題は 偽 である.
4. (a) $x^2 \geq 1 \iff x \leq -1 \vee x \geq 1$ であるから, $p \Rightarrow q$ は成り立つが, $q \Rightarrow p$ は成り立たない. よって, (3) p は q の十分条件であるが, 必要条件ではない.
 (b) $x = 1, y = -2$ とすると, p は真であるが, q は偽である. また, $x = -1, y = 2$ とすると, q は真であるが, p は偽である. よって, $p \Rightarrow q, q \Rightarrow p$ はともに成り立たないので, (4) p は q の必要条件でも十分条件でもない.
 (c) 2次方程式を解くことにより $x^2 - 2x + 1 = 0 \iff x = 1$ が成り立つことがわかる. よって, $q \Rightarrow p$ は成り立つが, $p \Rightarrow q$ は成り立たないので, (2) p は q の必要条件であるが, 十分条件ではない.
 (d) $q \Rightarrow p$ は代入することで成り立つことがわかる. $p \Rightarrow q$ の対偶を考えると, $x \neq 0 \vee y \neq 0 \Rightarrow x^2 + y^2 \neq 0$ である. いま, $x \neq 0$ とすると, $x^2 > 0$ であり, $y^2 \geq 0$ だから, $x^2 + y^2 > 0$ が成り立つ. 同様に, $y \neq 0$ のときも $x^2 + y^2 > 0$ が成り立つ. したがって, $p \Rightarrow q$ の対偶がなりたつから, $p \Rightarrow q$ も成り立つ. 以上より, (1) p は q の必要十分条件である.

5.

$$\sigma \circ \varphi = \begin{pmatrix} 1 & 2 & 3 & 4 \\ 2 & 1 & 3 & 4 \end{pmatrix}, \quad \varphi \circ \sigma = \begin{pmatrix} 1 & 2 & 3 & 4 \\ 1 & 4 & 3 & 2 \end{pmatrix},$$

$$\sigma^{-1} = \begin{pmatrix} 1 & 2 & 3 & 4 \\ 2 & 4 & 1 & 3 \end{pmatrix}, \quad \varphi^{-1} = \begin{pmatrix} 1 & 2 & 3 & 4 \\ 3 & 2 & 4 & 1 \end{pmatrix}.$$